

ランチタイムセミナー

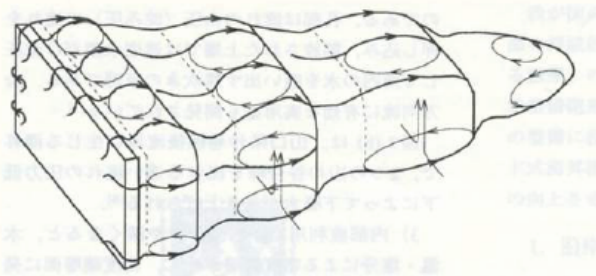
日本海における人工湧昇流研究の意義

演者：大竹臣哉先生（福井県立大学・海洋生物資源学科・教授）

日時：11月19日（水）12:15～13:00

場所：福井県立大学小浜キャンパス・交流センター103号室

海洋環境工学は、水産資源の確保と増大を担うため、海洋環境を水産生物にとって好適な環境に改変させる工学で、この40年間に急速に発展し、人工魚礁の設置や魚介類の仔稚魚の増殖場造成事業などにかかわってきた。日本海の水産資源は、大別すると、東シナ海から来遊する大型の回遊魚と日本海で再生産が繰り返されるイワシ類や底魚類に分類される。これらの資源変動は海洋環境と密接にかかわっているが、漁獲は、1990年ごろをピークに急激に減少している。特にイワシ類の減少が著しい。一方、底魚類は、20年間の漁獲統計ではほぼ安定した生産であり、人工魚礁が、この底魚の漁業生産に機能していると推察できる。日本海側は沿岸境界流のため陸上からの栄養塩は発散することから、表層は基本的に貧栄養である。日本海沿岸の各地に点在する巨大な瀬は、生態系が構築され、よい漁場となっていることはよく知られている。これらの瀬では、地形性湧昇流が発生し、表層へ栄養豊かな底層水が供給されている。今後、日本海の水産資源を安定して維持、増大させるためには、安定した食物連鎖系の循環が不可欠で、この地形性湧昇流の発生機構の解明とそれを応用した人工湧昇流の開発が必要である。



このセミナーは、当学科の教員間でそれぞれが従事する研究・教育の情報交換を目的に始められました。しかし、現在では、学内の院生、学生にも参加を呼びかけています。このたび学外の方にも、このセミナーへの参加を呼びかけることにしました。私たちの研究や教育の内容を知っていただいたり、それらの方向性について忌憚のないご意見を頂いたりすることが、私たちにとっても有意義なことと考えたからです。このセミナーは昼食時の短い時間ですので、十分な話題提供や議論が出来るかどうかは不安ですが、このような機会を通じて、新しい人のつながりが生まれ、研究の芽が育っていくことを期待しています。

学外の方で参加を希望される場合は、下記問い合わせ先までご連絡下さい

福井県立大学生物資源学部海洋生物資源学科
問い合わせ先：大竹 臣哉 0770-52-6300（代）